

令和8年度全国学力・学習状況調査「静岡市の結果」

【趣旨・背景】

- ・2026年4月20日から5月29日までの間、静岡市の全小学校 6 年生の児童及び全中学校 3 年生の生徒を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果を公表します。
- ・この結果をもとに、静岡市教育委員会では、静岡市学力向上専門家委員会において、児童生徒の学力や学習状況全般について分析を行います。
- ・また、各校では、学習指導の充実や学習状況の改善に役立てるとともに、次年度の教育課程の編成に生かします。

【内容】(詳細は、別紙のとおり)

静岡市全体の結果の概要

- ・教科(国語、算数・数学)の概要及び平均正答率
- ・中学校英語のIRTスコア(※)
- ・児童・生徒質問紙調査の概要
- ・学校質問紙調査の概要

※IRT(Item Response Theory:項目反応理論)

- ・問題の難易度や測定精度などの特性と、児童生徒の学力を区別して分析し、学力をスコアとして表す統計理論です。
- ・異なる問題で実施したテストや異なる集団の結果を比較できる特徴があり、2022年度から中学校理科に導入され、2026年度から中学校英語、2027年度から小学校国語と算数、中学校数学にも導入されます。

【留意点】

- ・本調査で測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。結果の公表及び活用に当たっては、序列化や過度な競争につながることを十分配慮し、適切に取り扱うようお願いします。

【問い合わせ先】

静岡市教育委員会 学校教育課(清水庁舎8階)、担当者:小笠原・長田 電話:054-354-2521

【別紙資料等】

有(令和8年度全国学力・学習状況調査静岡市全体の結果概要)

令和8年度全国学力・学習状況調査 静岡市全体の結果

本資料は、調査結果の概要について示したものです。今後、教育委員会及び学校において分析を行い、成果と課題を明確にし、改善に向けた取組を進めていきます（スケジュールについては7を参照）。

1 調査日 令和8年4月20日（月）～5月29日（金）

2 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況との比較を通して本市の結果を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図り、学校教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童・生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

3 調査を実施した学校・児童生徒数

静岡市	学校数	児童生徒数
小学校6年生	77※／78校	4,595人
中学校3年生	41※／42校	4,123人

※小学校・中学校1校は対象学年児童生徒の在籍なし。

4 調査内容

（1）教科に関する調査

小学校：国語、算数

中学校：国語、数学、英語（英語は令和5年度以来の実施）

（2）児童生徒質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

（3）学校質問調査（学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備状況等）

5 今年度の調査の特徴

中学校英語4技能調査（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）の全面 CBT*化

CBT（Computer-based Testing）とは、コンピュータ使用型調査のこと

6 結果の概要

（1）教科に関する調査結果

市・県の調査結果が国から整数値で示されているのは、「学力面において、細かい桁における微小な差異は実質的な違いを示すものではない」という考えによるものである。

ア 小学校平均正答率（％）

令和8年度	静岡市	静岡県	全国
国語	61	60	60.9
算数	57	56	56.4

イ 中学校平均正答率（％）

令和8年度	静岡市	静岡県	全国
国語	66	65	63.9
数学	61	58	57.0

ウ 中学校英語（3技能）平均 IRT スコア

令和8年度	静岡市	静岡県	全国
英語	517	513	499

4技能のうち「話すこと」の結果は秋頃に国から市へ提供される

1 IRTスコアをベースに示します ① IRTに基づく調査のイメージ -1

IRTとは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
項目反応理論(Item Response Theory)。
異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。
※PISA、TOEIC・TOEFL等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。



悉皆調査でIRTを導入するメリット



- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

<参考> 素点方式（正答数・正答率）、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ

本資料はイメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式	IRT方式
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環 (C) を見ることができたか	どの大きさのランドルト環 (C) を安定的に見ることができたか
得点(スコア)の例	5問/7問 (正答率71%) Aさん	0.2 Aさん
	4問/7問 (正答率57%) Bさん	0.3 Bさん

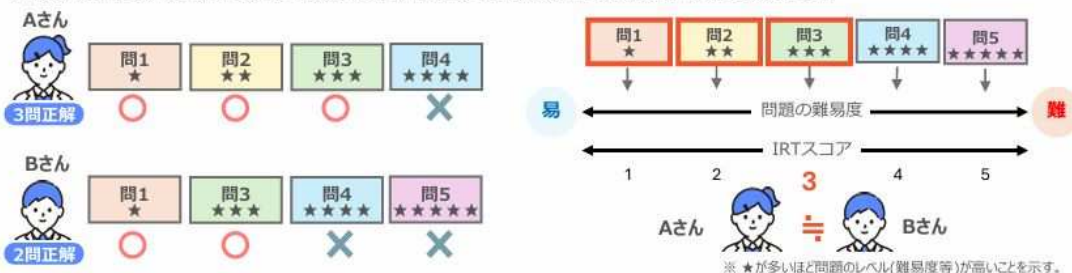
※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

3

1 IRTスコアをベースに示します ① IRTに基づく調査のイメージ -3

個人の成績（スコア）の算出方法

各問題の難易度等を用いて、正誤パターンの状況から、受検者の能力値を推定。難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。IRTスコアは、推定された能力値を500を基準にした得点で表示。



測定・把握できるもの

素点方式	IRT方式
焦点化された学力の測定 ● 問題セットが1つのみであり、調査により広範な学力の測定には限界がある。 ● 学力層A～Dも、「焦点化された学力」に基づいて児童生徒を25%ずつに区切ったもの。	幅広い学力の測定 ● 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。調査により従来より広い学力を測定できる。 ● IRTバンドも、「幅広い学力」に基づいて算出したもの。
当該学年の児童生徒間の学力の把握が可能 ● 各年度の問題の難易度が厳密に調整されていない限り、他の年度の正答率・学力層A～Dと単純に比較することは適当ではない。	複数年度間の学力の把握が可能 ● 他の年度のスコア・IRTバンドを経年比較可能な設計とすることも考えられる。

(2) 児童生徒質問調査結果

ア 全国との比較において差分が大きい上位5項目

質問 番号	小学校	静岡市	静岡県	全国	差分
35	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（ほぼ毎日）	56.3	46.6	43.0	+13.3
36-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか と思いますか	82.5	78.2	74.6	+7.9
6	学校の勉強のことに、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか（ほぼ毎日）	46.2	43.8	40.6	+5.6
27	昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）にどれくらい行きますか（週に1回以上）	22.6	23.0	17.6	+5
70	算数の勉強は好きですか	70.7	71.3	66.7	+4

質問 番号	中学校	静岡市	静岡県	全国	差分
36-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか と思いますか	86.6	84.3	80.0	+6.6
27	昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）にどれくらい行きますか（週1回以上）	13.8	8.7	7.8	+6
61	数学の勉強は好きですか	61.1	58.6	56.1	+5
66	1、2年生のときに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	64.1	64.6	60.4	+3.7
6	学校の勉強のことに、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか（ほぼ毎日）	32.8	31.9	29.3	+3.5

イ 全国との比較において差分が大きい下位5項目

質問 番号	小学校	静岡市	静岡県	全国	差分
38	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	58.7	60.9	66.4	-7.7
13	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	63.7	71.6	70.6	-6.9
20	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか	62.9	69.5	69.6	-6.7
52	国語の勉強は得意ですか	55.7	56.6	60.4	-4.7
53	国語の勉強は好きですか	52.9	55.9	57.4	-4.5

質問 番号	中学校	静岡市	静岡県	全国	差分
38	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	55.6	58.7	65.5	-9.9
52	国語の勉強は得意ですか	44.6	50.8	51.6	-7
13	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	66.2	72.5	71.9	-5.7
57	1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか	66.5	72.7	71.8	-5.3
56	1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生はあなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか	68.1	73.8	73.0	-4.9

※数値は肯定的な回答（強い肯定＋肯定）をした児童生徒の割合（％）

(3) 学校質問調査結果

ア 全国との比較において差分が大きい上位5項目

質問番号	小学校	静岡市	静岡県	全国	差分
67	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか（毎日持ち帰っている）	83.1	64.8	43.2	+39.9
22	特定の教員が学級担任を務めるのではなく、複数の教員が共同で学級担任を務める体制（いわゆる、チーム担任制、グループ担任制）を実施していますか	61.1	29.7	32.2	+28.9
76	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	91.0	74.1	67.0	+24
64	調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上と答えた学校の割合）	62.4	42.4	42.5	+19.9
75	学校では、調査対象学年の児童のうち、日本語指導が必要な児童に対して、特別な配慮に基づく指導をどの程度行っていますか	45.5	43.3	26.3	+19.2

質問番号	中学校	静岡市	静岡県	全国	差分
15	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	97.5	78.2	79.0	+18.5
93	令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100.0	86.9	84.2	+15.8
87	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	95.0	91.4	84.4	+10.6
84	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	82.5	77.7	72.0	+10.5
78-2	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（2）希望する不登校生徒に対する授業配信（週3回以上と答えた学校の割合）	42.5	35.8	32.4	+10.1

イ 全国との比較において差分が大きい下位5項目

質問 番号	小学校	静岡市	静岡県	全国	差分
74-1	学校では、調査対象学年の児童のうち、発達障害を含む障害のある児童に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、次のことをどの程度行いましたか。（１）人的支援の配慮	58.5	66.3	74.4	-15.9
12	近視の予防の一環として、学校の休み時間（昼休みを含む）や放課後などの時間（部活動の朝練・放課後練習を含む）に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たった際の配慮事項（対象から30cm以上目を離す、30分に1回は目を休めるなど）について指導していますか	68.9	76.2	80.5	-9.6
78	コミュニティ・スクールの仕組みや地域学校協働活動等の取組を活用して、学校の運営や教育活動に関し、児童が意見を表明することが出来る取組を行いましたか	36.4	41.6	46.0	-8.9
55	学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか	66.3	71.2	75.2	-11.6
24	児童にとって、学校施設全体として、児童が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか	75.4	75.8	83.3	-7.9

質問 番号	中学校	静岡市	静岡県	全国	差分
78-5	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（５）生徒の心身の状況の把握	20.0	29.6	37.8	-17.8
75	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか（毎日持ち帰っている）	37.5	63.4	53.2	-15.7
28	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	75.0	86.8	89.4	-14.4
30	調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	42.5	51.9	56.7	-14.2
71	教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	40.0	55.6	53.8	-13.8

※数値は肯定的な回答（強い肯定＋肯定）をした学校の割合（％）

7 結果の分析と学力向上に向けた今後の取組

(1) 教育委員会の取組

時 期	内 容
R8. 8 月	・ 教育センターで教科に関する調査結果の分析を行う。 ・ 学校教育課が児童生徒質問・学校質問調査に関する結果の分析を行う。 ・ 学力向上専門家委員に結果の分析を依頼する。 ・ 学識者、保護者、校長等による学力向上専門家委員会を開催し、今年度の結果について、分析を行う。
R8. 9 月～	・ 研修主任を対象に、静岡市全体の傾向等や授業における改善点について周知する（研修主任者会等）。 ・ 児童生徒質問調査や学校質問調査の分析結果を、各教育施策に生かす。 ・ 学力・学習状況調査を学校経営に反映するよう、学校経営支援訪問（後期）や教育課程ヒアリングにて指導、助言を行う。

(2) 学校の取組

時 期	内 容
R8. 7 月～	・ 学級担任から児童生徒に個人票を返却し、良さや課題を伝える。 ・ 自校の調査結果から見られる成果と課題を分析・考察して、授業改善の方向性についてまとめる。 ・ 小中一貫教育の各グループにおいて共通する課題について分析・考察する。
R8. 9 月	・ 学校だより等を利用して、地域・保護者に結果を周知する。 ・ 改善策を生かした授業に取り組む。
R8. 10 月	・ 自校の結果を踏まえた上で、次年度の小中一貫教育課程の編成を進める。
～R9. 1 月	・ 学校評価委員からの意見を今後の取組に生かす。